

## 第49回保団連大会 発言通告用紙

協会・医会名 千葉県保険医協会	氏 名 細山 公子
文書発言	
発言テーマ	風しん排除をめざし、定期健診時のクーポン券活用の宣伝強化を
<p><b>発言内容</b></p> <p>風しんの流行が止まりません。2019年に入り、先天性風しん症候群(CRS)のお子さんが既に4例(埼玉、大阪、東京2例)報告されている。千葉協会は妊娠中に風しんに罹って出産した母親と先天性風しん症候群の患者・家族でつくる「風しんをなくそうの会『hand in hand』と協働し、2020年までに風しん排除をめざし共に活動をしている。2013年の流行では45人の先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれ、11人の赤ちゃんが亡くなっている。また、妊娠中の風しん罹患を理由に中絶された貴い命もある。風しんはワクチンで防げる病気であり、風しんもCRSもゼロにできる。</p> <p>今回のCRS4例うち3例は「罹患歴なしもしくは不明」で不顕性感染と思われる。厚労省の調査では感染場所として「職場」や「電車内」があげられており、妊婦さんを周囲の人々がワクチン接種を行い、「集団免疫」で感染をとめることが重要である。そのためにはMRワクチンの接種率を向上が急務である。</p> <p>2014年3月に厚労省は「風しんに関する特定感染症予防指針」において「早期に先天性風しん症候群の発生をなくすとともに、2020年度までに風しんの排除を達成すること」を目標とし、風しん追加的対策(昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性に対し、①予防接種法に基づく定期接種の対象とし、3年間、全国で原則無料で定期接種②ワクチンの効率的な活用のため抗体検査の実施等)を講じている。しかし、無料クーポン券の使用は進んでいない。</p> <p>2018年以降の風しん流行の中心は働き盛りで時間に余裕がない40歳～57歳の男性である。自身の無料クーポン券を職場検診時に組み込むことで速やかなワクチン接種につなげることが可能である。実際に、昨年秋に大阪府では知事を先頭に全職員対象に庁内で抗体価検査を実施している。</p> <p>一日も早く風しんを排除し、CRS児をなくすために、職場における年1回の定期健診で無料クーポンの活用を促すよう、保団連・各協会・医会において周知・宣伝を強めていく必要がある。</p>	